

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102106		
法人名	(株)サン工業		
事業所名	グループホーム サンライフ善知鳥		
所在地	青森市古館1丁目13-26		
自己評価作成日	令和4年8月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普段から地域住民の皆様から気に掛けていただき、良好な協力体制となっている。行事としての外出の他、突発的な外出等、外に出る機会も多く、季節を楽しんでいただいている。
SHS工法という高断熱・高気密システムの建物で、24時間換気・全室暖房となっているため、ホーム内の温度差がなく、高齢者に適した環境となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅街の中にあり、SHS工法で建てられた建物は高断熱、高気密システムにより、ホーム全体が一定の温度で保たれ、利用者は快適な空間で過ごしている。
近隣住民とは普段からつながりが強く、ホームの避難訓練にも協力も得ており、災害発生時の協力体制を構築している。
ホームでは看取りの体制を整えており、重度化や看取りの指針を定め、本人や家族、関係機関等との密な連携により、利用者が最期まで住み慣れた場所で尊厳を保って過ごすことができるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根付くホーム作りをし、ホームの理念やユニット目標を掲げている。	理念は全職員で共有するよう、ホーム内の見やすい場所に掲示している。職員は利用者が地域の中でその人らしく、楽しく幸せに暮らせるよう、理念を反映させたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や行事、避難訓練への参加を呼びかけている。また、近隣の人達に気軽に立ち寄っていただけるように努め、町内会の行事にも参加し、交流を図っている。(コロナ感染状況次第)	コロナ禍のため、地域の行事は減少しているものの、以前から付き合いのある近隣住民とは交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方等から見学の希望があれば、受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民、地域包括支援センター等に意見を聞き、情報交換を行い、今後の取り組みに繋げている。いつでも会議録が閲覧できるよう、玄関に掲示している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、書面にて開催しており、日頃のホームの運営状況等を報告している。また、委員から出された意見は、今後のサービス向上に役立てていくように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を提出したり、ホームの状況を伝え、情報交換をする等、協力関係を築いている。	行政とはコロナウイルス予防関連等についてメールでやり取りをしており、普段から利用者の課題の解決に向けて、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	19時から5時に施錠しているが、それ以外の時間は自由に出入りできるようにしている。外出傾向にある時は見守り、職員と一緒に近隣の散歩に出かける等の対応をしている。身体拘束が必要な時は家族の同意を得ることとしている。	ホームでは定期的に職員会議等で身体拘束について話し合っており、職員は身体拘束の内容や、弊害について理解している。また、外出傾向がある利用者には声掛けや、見守りを行い身体拘束はしないという方針で日々ケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の分類や定義、兆候サインマニュアルがある。研修に参加して、伝達研修を行い、日々の生活で虐待に繋がらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した後に伝達研修を行い、その資料を全職員が閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族に十分な説明をしている。契約時以外も質問があれば応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、家族が話しやすい雰囲気を作るよう心掛けている。意見箱を設置しており、家族から意見が出された場合は、今後のケアサービスに反映させている。	玄関に意見箱を設置している他、家族がホームを訪れた時等、利用者の近況を報告し、意見を聞けるように努めている。また、遠方の家族には定期的にホーム便りやお手紙を送り、意見や要望を話してもらえるように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議を行い、意見を出して話し合いができるようにしている。	ホームでは定期的に職員会議を行っており、職員が意見を出せる機会を設けている。また、出された意見はできる限りホームの運営等に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定があり、いつでも見ることができる。代表者と話し合いができる環境となっており、勤務体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるようになっており、参加後も伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター圏域内のグループホーム交流会に参加し、意見交換を行っている。(現在はコロナの影響で中断中)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人の意見を聞き、対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事等、家族の思いを傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望に沿えるよう、支援方法を考え、訪問看護やマッサージ等、個々に合わせた支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースでできる事を行っていただき、職員も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の思いを共有できるよう、情報交換を行い、共に支える関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状で近況報告をしたり、面会の受け入れ等を行い、関係が途切れないよう支援している。	入居時に、利用者や家族からこれまでの生活歴や馴染みの人、場所を聞き取り、把握するように努めている。ホームでは毎年、年賀状を送る支援を行っており、これまでの関係を継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係を把握し、平等に過ごせるよう配慮している。トラブル時にはすぐに介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の相談に応じて思いを聞くように努め、退居先への訪問も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から情報収集を行い、希望に沿えるよう努めている。	職員は日頃の利用者とのコミュニケーションの中で、思いや意向の把握に努めている。また、意向の把握が難しい場合は、家族や担当職員からの情報を基に、全職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネジャーから情報収集し、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で話し合い、家族等から意見を聞いて作成している。	介護計画は利用者及び家族、担当職員等の意見や気づきを反映させており、個別具体的な計画となっている。また、利用者の状態に変化があった時は、その都度見直しを行っており、現状に合った計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態変化や結果等をケースに記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、訪問マッサージ等の利用をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防団による避難訓練や近所の方の訪問があり、豊かな暮らしが楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院を受診できるよう支援している。	入居前の受療歴を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。歯科受診等、専門医の受診についても往診や通院で対応しており、利用者が適切な医療を受けることができるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護で状態報告をし、急変時に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と情報交換を行っている。入退院時は家族と連絡し、話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行う他、病状が変化した時にも都度説明をし、話し合いを行っている。	重度化や終末期のホームの対応について、入居時に指針で説明しており、医療機関や訪問看護ステーションと連携を図り、看取りの対応を行う体制である。また、日頃から家族も含めて医療機関と話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルや緊急連絡網があり、普通救急講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や水害訓練を行い、地域住民や消防署の協力も得ている。	年に2回、避難訓練を実施しており、コロナ禍前は地域住民や消防団からの協力もあり、災害時の地域の協力体制を確立している。また、災害発生時に備えた非常食や暖房器具等も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格を把握し、羞恥心等に配慮した声掛けをしている。	職員は日々利用者の尊厳を大切にしたケアを心がけている。排泄介助等の際は、特に利用者の羞恥心や自尊心に配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人で決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、その人らしい身だしなみをしていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好、希望に沿うように対応しており、一緒に食事をしながら会話をしている。また、準備や片付けができる利用者は手伝いをしてくれる。	献立は業者に依頼し、利用者の苦手な物があつた場合は代替品を提供する等、柔軟に対応している。また、利用者の状況に応じ、食器の片づけや茶わん拭き、盛り付け等の手伝いを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録している。食欲が低下している時は、栄養ドリンクや好物を購入する等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。個々に合わせた準備、対応をしている。場合によっては、歯科往診を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録して把握しており、必要に応じて、個々に合わせた誘導方法で行っている。	排泄パターンを記録し、利用者一人ひとりに合わせた事前誘導を行う等、排泄の自立に向けて支援をしている。また、介助する際は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた予防策となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	湯加減や入浴習慣、好みを把握し、対応している。	入浴は基本的に週に2回行い、利用者一人ひとりの入浴習慣や意向を取り入れて支援している。入浴の拒否がある場合には、時間の変更や介護者を変える等、利用者がゆったりと安心して入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、ベッドや布団の調整を行い、希望等に対応できるようにしている。眠剤が必要な時は主治医や家族に相談して決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報を共有し、変化があった時は記録に残している。家族への報告も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割を促し、労いの言葉をかけている。また、外気浴や散歩を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節毎に外出行事を設けている。気分転換を兼ね、買い物等も一緒にできるように支援している。現在はコロナの影響で近所への散歩をしている。	コロナ禍のため、感染対策を徹底した上で、利用者の楽しみや気分転換につながるような限り外出する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時、品物を選んだりお金を払う支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や行事はがきを出す機会を多く設け、一言文面を書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示版や居室飾りを作っている。ホーム内は一定の温度で保たれている。	ホームの窓から入る光で程よい明るさに保たれており、所々にある絵画や季節の飾りにより、全体が家庭的な雰囲気となっている。また、ホーム内は全て一定の温度となっており、利用者が快適な空間の中で穏やかに過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングが別になっており、過ごしやすい空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や道具等を持ってきていただいている。また、家族写真を掲示し、家族との繋がりを保っていただいている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうように働きかけており、遺影や家族写真、愛用の本等の持ち込みがある。また、塗り絵や習字、家族の写真を一緒に飾り付ける等、職員はその人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等を明記している。必要な場所へ手すりを設置している。		